

## 地域自立支援協議会 会議要録

会議名:白井市地域自立支援協議会 全体会

日時:令和5年3月23日(木) 14:00~15:50

場所:団体活動室1・2

出席者:林会長、鈴木副会長、飯ヶ谷委員、高橋(祐)委員、石川委員、大網委員、森田委員、山崎委員、藤原委員、神成委員、染谷委員、村田(か)委員、川上委員、村松委員、上野委員、赤間委員、白田委員(17名)  
(以下、敬称略)、  
事務局(山本、伊藤、川合、久保田、高橋(友)、村田(篤))

欠席者:橋本委員、岩橋委員、高橋(奈)委員、田中委員

傍聴者:0名

### 議題:

- (1) 各委員より最近のトピックスの報告
- (2) 各部会の活動報告
- (3) 相談支援専門員研修への推薦方法について(生活支援部会案件)  
個人情報保護に関する要綱改正について(生活支援部会案件)
- (4) 公共交通に関する提言書について(就労支援部会案件)
- (5) その他 報告事項
  - ・ 外出支援サービス・福祉有償運送等について
  - ・ 県の協議会からの依頼について
  - ・ 障害福祉計画策定委員の推薦について

### 資料:会議次第

- ・ 資料1-1~1-4 白井市地域自立支援協議会 各部会年間報告
- ・ 資料1-1 補足 白井市地域自立支援協議会設置要綱(改正)
- ・ 資料1-3 補足 就労部会提言書(交通網)
- ・ 資料2 その他(移動困難者の移動支援策に関する今後の方針)資料
- ・ 資料3 県協議会への要望

### 内容:

#### 【白井市地域自立支援協議会会議】

(1) 各委員より最近のトピックスの報告

林:通常に人と会える喜びを感じている。

飯ヶ谷:相談支援では直接会う機会が減っていたが、対面が増えてきた。面談の時間が増えている。

高橋(祐):利用者ははじめ混乱していたが、マスクや衝立に慣れてきて、衝立により逆に作業に集中できるようになった。工賃が下がる等厳しいこともあった。

石川:職員5名、メンバー21名。メンバーの平均年齢50歳。職員も高齢になり、後継者作りが課題。

大網:定期的な抗原検査を職員が実施。今年は趣味を再開でき嬉しく感じる。

森田:通所者の就職者、今年度8名。昨年度は18名。大きく減ったが、定着率は20%以上向上した。働き続けるを目指す。

山崎:先週卒業式、明日終業式。学校卒業後に職場やサービス事業所と連携するが、学校にいる間も地域の方との連携を大事にしたい。

神成:子どもの全体数は減っているが、特別支援学校は例年通りの数、個別支援学級を希望する人は年々増加。就学相談の際に、療育などを受けずに来たという人もいる。ニーズが多様になっている。

伊藤:事務局より。障害福祉サービスは感染防止をしながら支援を止めずに行っていたと思う。協力に感謝。市ではワクチン接種や感染症予防研修などを行った。これから感染症が5類になるにあたり、特例等は解除されると思うが、感染予防はしつつ、支援を積極的にお願いしたい。(川合、山本、久保田、高橋(友) 紹介のみ)

白田:不登校の児を中心に集いの場をしており、最近、衝立を取ることができた。来年度の人事は、松島が所長。自分は船橋のサークルで重層的支援事業を。

赤間:WBC 感動した。桜も満開になる。普段の暮らしを楽しめることが福祉であると思う。

上野:息子が特支高等部を卒業した。マスクがずれたり外したりして、周りの眼が気になっていたが、最近周りの方の視線も和らいだ。コロナ禍でいちごの会が集まらなかった。次の世代の人へとつないでいきたい。

村松:しらゆりの会も高齢化。地域の支援にお世話になっている。

川上:コロナ禍で役員のみで会議を行ったりしていたが、先日、講演会を実施した。来年度は2回やる。7月と10月。きょうだい問題を取り上げる予定。

村田:定着支援などオンラインが中心だったが、最近は面談が徐々に増え始めた。障がい者雇用率が令和6年度から段階的に上がる。大きな企業からは徐々に相談が入ってきている。

染谷:ワクチンの職域集団接種を4回行った。コロナでの業績停滞が徐々に回復しつつあったが、ウクライナ問題による物価高騰がコロナ以上に影響がある。昨秋3社の閉鎖あり。

鈴木:就労関係の計画相談を担当することが多いが、サービスを利用して就職しても定着に結びつかないことが多かった。

林:研修や直接顔を合わせる機会が増えたとの報告があったように、来年度以降の部会などで積極的に検討していただきたい。また、物価上昇もかなり切実。当法人のGHでも、燃料調整費が上がった。使った分は利用者負担ではあるが、年金のみの人の負担を増やすのも厳しい。事業所が負担するには国で報酬が決まっており、赤字になる。

## (2) 各部会の活動報告

**生活支援部会**:飯ヶ谷部会長より資料1-1、1-2により説明。

鈴木:相談支援従事者研修の現地研修はどの部会に参加してもらうのか。

飯ヶ谷:開催期間が未定。その時期の部会にオブザーバー参加していただきたい。

伊藤:日程候補が県からきた。現任研修は9月募集で現地研修が12月中旬から1月中旬。可能であれば相談WGを当てたいと考えている。

林:主任相談支援専門員とは。研修の推薦を自立協で行うのは、全国的な流れなのか。

飯ヶ谷:基幹相談に設置するのが望ましいと言われている職。地域の人材育成を担う。グループスーパービジョンなどのノウハウを持つ。5日間研修を受ける。推薦は千葉県のルール。昨年度の受講者が協議会や医ケアなど基礎知識のない人が多かった。

**就労支援部会**:高橋(祐)部会長より資料1-3により説明。

川上:育成会と市長との懇談で、市内で誘致をしている企業で、ぜひ障がい者雇用の実習をしてほしいと伝えた。

鈴木:就労支援部会2回の理由は。相談会を実施した振り返りができればよかったと思う。また担当する相談員に

については、多様な人材を入れたほうが良いと思った。

伊藤：会の回数は市の事務局がスケジュール案を出しており、事務局のキャパシティー内で各部会割り振りをして  
いるが、回数の意見を聞くことは可能。

高橋（祐）：相談員は、翌年以降検討をしたい。市で福祉的就労などで足りていないものはわかっているか。

伊藤：本日資料がないが、前年度の協議会で福祉サービスとして足りていないものについて話をした。記憶の範  
囲では、障がい者重度な人の GH などが足りておらず、就労関係では定員数としてはゆとりがあるという整理だ  
ったかと思う。

林：部会の回数は昔からの課題でもあるが、市も頑張っていていただいてすべての部会に出る事務局から見ると毎月  
開催となっている。運営のうち、市がやってくださっている部分を委員へ移していれば回数も増やせるのでは  
ないかと思う。

上野：サービスの充足について、我が子は卒業後生活介護に通所するが、数が足りていても、事業所ごとのカラー  
や相性などもある。数が足りていれば安心ということではない。増えていくことを望む。次の世代へもつないでい  
くことが大事。

伊藤：委員がおっしゃる通り選べるようになると良い。一方、適正な数でないと開所したは良いが閉鎖してしまうよ  
うなこともあると聞く。バランスをしっかりとりながら推進していきたい。

林：都市部だと放デイは非常に多い。白井だとかなり少ない。ただ、定員を開けておいてもらうとなると事業所が運  
営できなくなる。例えば、柏市だと、自法人の事業所の定員が埋まりそうになると、次の計画をたてて開所したり  
する。そういう事業所が何法人かあると続いていく。なかなか行政が関与できない部分もある。そういう法人に  
参入していただけるとよいが非常に難しい。官民一体で、ご家族も含めて検討していけると良い。

全体会・研修会 伊藤より資料 1-4 により説明。

川上：災害の福祉避難所協定を行ったとのことだが、どの事業所か。

伊藤：社会福祉法人フラットと、NPO 法人ばればれ・ちば。今のところ直接避難ではなく、一時避難後必要に応じて  
て福祉避難所の開設を行う流れで考えている。

白田：佐倉で医ケア児の避難訓練をモデルケースで実施した。自立協も協力して実施し、提言としてまとめていた。  
香取、習志野でもやっているよう。

### (3) 相談支援専門員研修への推薦方法について(生活支援部会案件)

#### 個人情報保護に関する要綱改正について(生活支援部会案件)

林：相談支援部会で行うことは良いが、明確な選定基準を作って欲しい。

伊藤：来年度は厳しいと思うが、運用していく中で、基準を作っていければと思う。

▶満場一致で可決。

### (4) 公共交通に関する提言書について(就労支援部会案件)

高橋（祐）：市内の障がい者が白井工業団地方面への就労を行うにあたり、公共交通機関の不足が問題となっ  
ており、以前も提出したが、就労支援部会として提言書としてまとめた。

染谷：市内全域の障がい者、高齢者等あらゆる人の就労面、生活面の向上を目指したい。工業団地でアンケート  
を行った。一昨年7月民間バスがダイヤ改正を行い、相当の減便となった。通勤で公共バス利用者は1.8%。  
使っていないというより、使えない。送迎バスの運行を行っている企業は15社。経費は約1億円。もし路線バスを  
利用できるなら、新鎌ヶ谷、西白井、白井を希望する人が多い。市の循環バスや民間のバスの変更にぜひ取り  
組んでいただきたい。見直しに際してではなく、見直しを待ってられないということで、変更を希望したもの。

飯ヶ谷：相談で関わっていても、買い物や余暇、病院に行きづらいという話はある。

村田（か）：工業団地から雇用の相談をいただいているが、自社バスがあるところは進むが、ないと雇用に進んでいきづらい。

林：グループホームの設置場所への影響。就職している人が、バスがなくなって住めなくなることがあった。

▶満場一致で承認。

#### (5) その他 報告事項

・外出支援サービス・福祉有償運送等について

村田（篤）：移動制約者の市の方針について、福祉タクシーは、ニーズに応じてサービス内容を拡充する。外出支援サービスの課題は利用者が少なく、費用対効果が課題。福祉有償運送については、事業の担い手不足が課題。今後の方針については、別紙参照。

飯ヶ谷：タクシー事業は車いすを中心に拡充と有るが、現状にプラスすることで良いか。

村田（篤）：対象の見直しについてもあわせて行っていく。

飯ヶ谷：障がいの重い人のことが今回記載されているが、軽度の人も移動には苦勞しており、見直していただくのであれば拡充していただきたいと思う。もし対象を減らすのであればかなりきびしい。

飯ヶ谷：福祉有償運送の補助金等については月間の費用か。車両経費は 200 万ではなく 20 万か。

村田（篤）：年額。車両経費は 20 万で、福祉車両に限ってではあるが実施。

大網：運営費助成は、市内で福祉有償運送をやっているすべての事業所が対象か。福祉有償だけをやっている事業所か。

村田（篤）：対象者を限定している事業所は除かれる。また、事業所が市内にあることが条件。

大網：他の事業があるため、本事業がやれている。当事業所は、利用者負担が高めではあるが、それでも赤字である。ガソリン代高騰や、アルコールチェッカー等費用負担も増えている。単独でやる事業所では増えないのではないか。

村田（篤）：補助金の運用については、実際に行いながら必要があれば見直しを実施する。

林：福祉有償運送は、タクシーの半額以下。なので確実に赤字になる。利用者からのニーズがありやらざるを得ない。移動支援など他の障害福祉サービスと抱き合わせて赤字を回避しているのが現状。そこは考慮いただきたいところ。

・県の協議会からの依頼について

伊藤：県の協議会に対する要望があれば、3月末日までに教えていただきたい。

・障害福祉計画策定委員の推薦について

山本：地域自立支援協議会より、みのりの高橋（祐）委員を推薦いただき、計画策定委員となった。

#### □その他

林：強度行動障がいの方の処遇。行動関連項目18点以上の方の支援が困難。まず、対象者が少ない。報酬が合わない。加算をつけても一日1万5,6千円。キャリア10年くらいの支援員が二人対応でないと支援できない。年間3~400万くらいしか入らないのに、人件費等で1200万くらいかかる。やればやるだけ疲弊していく。もう一つの課題では、社会福祉法人でも、区分3,4,5の行動障がいの無い人しか受けないという株式会社じゃないかという、営利のみを求める社会福祉法人が増えてきている。千葉県内でもそういう話が出ている。受ける法人が一極

集中してきている。うちの法人の事業所でも、22人中18人が行動障がい。そうなると事業にならなくなる。各都道府県に強度行動障がいの支援の在り方研究会を作ろうという動きがあり、一極集中しないように取り組もうとしている。千葉県でも立ち上がる。コロナ禍の支援について知ってもらおうと取り組んでいる。当法人だと、職員160人いるが、強度行動障がいに対応できるのは、30人くらい。クラスターが生じると半数位が勤務できなくなる。そうすると他の各事業所から強度行動障がいに対応する職員を集めて対応する。しかし3日程でまた半数位が休まざるを得なくなる。最終的に16時間連続勤務を3日間続けるようなことが生じる。事業所を一時閉鎖せざるを得なくなり、自分たちで閉鎖した場合は補助金がない。当法人だけではなく、ほとんどの入所入居施設がこのような状況。職員は精神的にも身体的にもボロボロで、利用者は行動障がい激しくなり、でも事業所を閉めざるを得ないから保護者から苦情を言われることもある。このようなことが年に2回くらいあった。職員は使命感だけで頑張ってくれている。

経営的にも、クラスターが起きると一か月で1500万の赤字が出る。二回で3000万がマイナスになる。保険や補助金で300万だけ回収できたが、来年からはなくなる。代替支援もなくなったら、より厳しくなる。

思いのある法人だけではなく、皆に知ってもらい、支援できる体制を広げていきたい。

伊藤：次年度初回は5月25日の午前中と考えている。また正式にはお知らせをする。

以上